

ロシア語の三者間会話における共同発話構築 ー話しやすい場づくりのための「チーム結成」についてー

ツォイ・エカテリーナ（大分大学）

1. はじめに

会話は、単なる情報伝達的手段にとどまらず、対人関係の構築や維持を目的とした社会的な相互行為である。その中でも、「共同発話」は、複数の話者が協力して一つの発話を作り上げるコミュニケーション現象として注目されており、言語的および非言語的要素が密接に絡み合った特徴を持つ。2 者間の会話では、通常、1 人がメッセージを発信する話し手となり、もう 1 人がその聞き手となる。一方、3 者以上の会話では、1 人の話し手に対して 2 人の聞き手がいる場合や、1 人の聞き手に対して 2 人の話し手がいる場合など、より多様な役割分担が見られる。本研究では、後者の状況に焦点を当て、2 人の話し手が共同で発話を構築することで話しやすい場を作り出す会話管理プロセスの解明を目指す。

2. 先行研究

発話の共同構築は、多くの言語で見られる現象である。本稿で分析対象とする「共同発話」とは、「2 人以上の参加者によって作り上げられる名詞句や節、単文、複文等」（ザトラウスキー、2000 : 44）のことである。これまでの研究では、その構造的特徴および構成要素などの形式的側面をはじめ、話者間の相互行為および社会的行為としての機能も詳細に記述されてきた。形式的な側面に焦点を当てた研究（Sacks, 1992; Ono & Thompson, 1996; Hayashi, 2003; Helasvuoto, 2004; Iwasaki, 2009; Grenoble, 2013 等）では、共同発話における後続部の接続箇所について言語による相違が指摘されているが、先行部の統語的關係が後続部の接続箇所および形式の予測において基本的な手がかりとなる点が共通して報告されている。また、発話文内の統語的關係に加え、プロソディーおよび間（ポーズ）も、共同構築への参入可能箇所を示す重要な非言語的要素として捉えられている。相互行為および社会的行為としての機能に注目した研究では、言葉探しの補助（Goodwin & Goodwin, 1986; Iwasaki, 2009）、複数人の会話における一部の参加者間の連帯形成（Bolden, 2003）、相手への共感および理解の表示（Helasvuoto, 2004）などが挙げられている。また、形式的な側面を扱った先行研究が示唆しているように、共同発話の先行部がその後の展開を方向付けることが多いが、後続部は必ずしも先行部と意味的に一致しない場合もある。Bolden et al. (2019) は、後続の話者が意図的に先行部から予測される内容と異なる発話を行うことによりユーモアを生み出す機能を指摘している。

3. 研究方法

本研究では、2024 年 1 月～6 月に YouTube 上で公開されたポッドキャストの動画 19 本（平均 1 時間 37 分 53 秒、計 30 時間 59 分 38 秒）を分析データとして用いた。ポッドキャストとは、インターネット上で配信されるトーク番組である。本研究で扱ったポッドキャストでは、ホスト 1 名とゲスト 2 名、またはホスト 2 名とゲスト 1 名が、その回のテーマに沿って個人的な経験や意見、また近況について話す。筆者は、動画の文字化資料を作成し、共同発話構築を含む「チーム結成」の発話連鎖を抽出した。

分析方法としては、共同発話の先行部と後続部の統語的關係および音調、共同発話を構築する話者の役割、先行部と後続部の意味的な一致不一致、後続部に対する先行部発信者の反応および評価を総合的に検討し、話し手同士の「チーム結成」における会話管理のプロセスについて考察を行った。

4. 分析結果と考察

本分析では、2 人の会話参加者が共同で一つの発話を構築し、その発話を 3 人目の話者に向ける場面を対象とした。「チーム結成」に基づく共同発話構築には「共同語り」、「共通認識に基づく話題の具体化」、「役割の共有」、「アイロニーやユーモアの創出」、という 4 つのパターンが見られた。以下、各パターンの会話例を挙げ、分析結果を説明する。

4.1 共同語り

断片(1)¹の会話参加者はホストの AZ、ゲストの格闘家 ME とコメディアン SO である。この断片では、AZ が格闘家ダナ・ホワイトによる ME の試合への批判について、ME にコメント求めている。一方、SO はホワイト選手の発言内容を把握していない。

1 行目では、AZ は ME に質問を投げかけるが、ME が回答する前に、話の背景を知らない SO が会話に割り込み、背景説明を求める。AZ は、一度回答権を ME に譲るものの、途中で発話を引き取り、ホワイト選手の発言を再現しようとするが、言葉に詰まってしまう。そこで、ME は、AZ の言いよどみと 0.62 秒の間の後、接続詞の *čto* (‘that’) に連結する形で共同発話を完成させる(9 行目)。このように、AZ と ME は「共同語り」をすることによって話し手として一体化し、円滑な会話進行を図った。

4.2 共通認識に基づく話題の具体化

断片(2)では、神経生物学者 VB が、ポッドキャストのホスト AK と TK に対し、人間の動機付けにおける脳の働きを説明している。

ホストの AK と TK は神経生物学の専門家ではないため、ゲスト VB と話題について知識を共有していない。しかし、TK より早く説明を理解した AK は、*zadači* (‘tasks’) を連結部分として利用し、修飾節を挿入することによって VB の発話を拡張した。そして、アイコンタクトでその共同発話を TK に向け、TK の理解を促そうとした。こうして、話題の事柄について共通認識を持った AK は共同構築を通じて主の話し手である VB とチームを結成し、話されている内容を具体化した。

4.3 役割の共有

断片(3)の会話参加者は、ホストの AŠ と EG、ゲストのコメディアン AM である。3 人は過去の記念すべき日について話しており、ゲストの AM は記憶に残る大切な出来事が少ないと述べた。一方、EG は、思

(1) hs_240213 [00:38:57]

1 AZ kak ty otněšsja k slovam Dana Uajta?
how you reacted to words Dana White
ダナ・ホワイトの発言についてどう思った?

2 <0.83>

3 SO a čto on skazal? prostite ja ne vs/ ne v kontekste.
but what he said sorry I not not in context
彼は何って言ったの? ごめん、その話は知らない。

4 AZ čto on skazal? Movsar.
what he said Movsar
モフサル、彼は何って?

5 <0.88>

6 ME m:: koroče on skazal čto <0.72> posle/ posle
hem shorter he said that after after
boja da↑ na konferencii čto-to kto-to
fight yes at conference something someone
sprošit: | on skazal/ |
asked he said
うーん、試合の後の記者会見で、誰か質問して、彼は

7 AZ | koroče skazal/ on tak sk/ skazal čto
shorter said he so said that

8 è:: <0.62>
er

9 ME "èto byl tipa ne samyj razvlekatel'nyj
it was kind_of not most entertaining
boj v ètom večere
fight in this night
| na: ètoj večerinke. "
at this party
「今夜の試合はあまり楽しいと思わなかった」って。

10 AZ | da: da da. iz-za togo čto on | prošel vsju
yes yes because that he went_through full
distanciju.
distance
そう、そう。最後まで行ったからね。

(2) kp_240303 [01:04:20]

共同発話の連結部分

1 VB zadači kotorye:: ne nesut očevidno vot sejčas
tasks which not bring obviously here now
preimuščestv v vyživanii ili vot ne udovletvorjajut
advantages in survival or here not satisfy
| kakix-to/ |
some

2 AK | sdelat' | prezentaciju naprimer. [TKを見る]
to_make presentation for_example
プレゼンテーションを作るとか。

3 VB potrebnostej. da. oni/ my často mozg dolžny
needs yes they we often brain have_to
aktivirovat'.
to_activate
課題。そうですね。それら/ 私たちはしばしば脳を活性化させないとはいけませんよ。

背景説明

共同発話の連結部分
共有知識に基づく共同発話

共同発話
共通認識に基づく話題の具体化

¹ キリル文字は国際学術システムに従いラテン文字に翻字し表記する (Timberlake, 2004:25)。

い出の日が多くあると、AM とは異なる見解を示した。

4 行目では、AM は EG に反論するために、記憶に残った日について具体例を求める質問を投げかける。その後、AM の意見に共感した AŠ が回答の範囲を狭める条件を加え、質問者側に立つ。それを受け、AM は接続詞の *i* (‘and’) で先行部の *zagljadyvat’ v* (‘to look at’) にかかる並列句 *vaš ženskij kalendarik* (‘your women’s calendar’) を連結させ、AŠ の発話をさらに拡張した。こうして、AM と AŠ は共同構築によって質問者役を共有するチームを結成した。また、9 行目の発話 *my vdvoëm* (‘we both’) からは、AŠ の共同質問者としての連帯意識が読み取れる。

4.4 アイロニーやユーモアの創出

共同発話では、後続話者が通常、先行部から予測される内容に合った続きを加えることが多い。しかし、本データでは、先行部から予測される内容とは異なる発話を意図的に連結し、とぼけやからかいを交えながら「お笑いコンビ」のようなチームを結成する場面が見られた。

断片(4)では、ゲストの TE が、もう 1 人のゲスト AS と共同制作したユーチューブのゲーム番組に寄せられた視聴者からの不評コメントを紹介している。1-3 行目では、TE は番組制作における改善すべき点として「ゲームマスターの話し方」と「1 話あたりの時間の長さ」を並列して挙げている。一方、ホストの VB は、先行部の「ゲームマスター」と「長さ」を組み合わせ、「ゲームマスターの髪の長さ」と、ユーモラスな改善点を加えた。VB のユーモアを認識した TE は、VB による発話拡張に肯定的に応じつつ、ボケで返答した(5 行目)。このように、VB と TE は共同発話における先行部と後続部の論理展開の不一致を利用し、内輪のユーモアが通じるチームとして会話を進めた。さらに、TE と VB のユーモアに気づかなかった AS の反応(7 行目)と、それに対する TE の返答(8 行目)からも、VB と TE の連帯感が確認できる。

断片(1) - (4) の会話例から明らかなように、共同発話構築は、単なる先行発話の完成ではなく、会話管理において話者間の連帯感を創出する社会的行為である。参加者は互いの発話をもとに文脈の共通認識を確認し、会話進行に応じてチーム結成しつつ協調的に会話管理を行う。その際、音調やポーズ、アイコンタクトといった非言語的要素が重要な手がかりとなる。これらの要素は、発話の接続箇所や話者の役割認識を明確にし、会話全体の調和を支える重要な手段として機能する。

5. まとめ

本研究では、三者間会話を対象に、話し手同士の連携形成における相互行為を分析した。会話参加者は共同で発話を構築することによって「チーム結成」を行い、共有知識に基づいた共同語りや話題の具体化、役割の共有、ユーモアを活用しながら動的に話しやすい場づくりに取り組むことが分かった。これらの知見は、多様な

(3) ct_240204 [00:33:35]

4 AM kakie dni ty pomniš?
what days you remember
覚えている日は?

5 AŠ esli ne zagljadyvat’ v fotoplětku <1.16> na
if not to_look at photo_roll on
tele|fone?
phone
携帯の写真を見ないとしたら。
6 AM |i| vaš ženskij kalendarik?
and your women’s calendar
女性用カレンダーも。

7...<2.16>
8 EG nu:: ja| oč | mnogo dnej bylo. |
well I very many days was
んー、そうだね、私、たくさんあるよ。

9 AŠ | kak my vdvoëm| davim na
how we both pressure on
tebja da ↑
you yes
ほら、こうやって二人で追い詰めちゃってね。

質問者役の共有

回答要求

(4) bl_240414 [00:24:45]

1 TE pervoe. dikcija mastera↑
first diction gamemaster’s
まず、ゲームマスターの話し方
2 VB ugu
uh-huh
うん
3 TE vtoroe. dlina vypuska korotkaja↑
second length episode’s short
| multipli/ animation
次に、1 話あたりの時間が短いこと。アニメーション/
4 VB | dlina volos | mastera↑..
length hair gamemaster’s
ゲームマスターの髪の長さ

5 TE e:: {h} bylo da::
er was yes
えー、そうだね。それもあった。

6 VB {h}

7 AS da? real’no?
yes really
そうなの? マジで?

8 TE net nu
no well
いや、まあ...

共同発話の連結部分

ユーモア創出

ユーモア不認識

役割配分が可能な三者間会話データの分析から得られたものであり、二者間会話研究では十分に捉えられない社会的相互行為を理解するうえで有益である。しかし、分析データがポッドキャスト番組に限定されているため、視聴者を意識したエンターテインメント性が影響している可能性がある。今後は、異なる状況や他言語との対照研究を進め、共同発話の普遍的な特徴と会話場面に依存する特性を明らかにする必要がある。

謝辞 本研究は、JSPS 科研費 JP24K04107「相互行為能力の習得に関する言語横断的研究—発話の共同構築を中心に—」（研究代表者：宮永愛子）の助成を受けたものである。

参考文献

Bolden, G. (2003). Multiple modalities in collaborative turn sequences. *Gesture*, 3, 187– 212.

Bolden, G.B., Hepburn, A., & Potter, J. (2019). Subversive Completions: Turn-Taking Resources for Commandeering the Recipient’s Action in Progress. *Research on Language and Social Interaction*, 52(2), 144-158.

Goodwin, M. H., & Goodwin, C. (1986). Gesture and coparticipation in the activity of searching for a word. *Semiotica*, 62(1/2), 51-75.

Grenoble, L.A. (2013). Talking out of turn: (Co)-constructing Russian conversation. In Thielemann, N. and Kosta, P. (eds.) *Approaches to Slavic Interaction*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, pp.17-33.

Hayashi, M. (2003). *Joint Utterance Construction in Japanese Conversation*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Helasvuo, M. L. (2004). Shared syntax: The grammar of co-constructions. *Journal of Pragmatics*, 36(8), 1315-1336.

Iwasaki, S. (2009). Initiating interactive turn spaces in Japanese conversation: Local projection and collaborative action. *Discourse Processes*, 46(2-3), 226-246.

Ono, T., & Thompson, S.A. (1996). Interaction and syntax in the structure of conversational discourse: collaboration, overlap, and syntactic dissociation. In Hovy, E.H. and Scott, D.R. (eds.) *Computational and Conversational Discourse: Burning Issues - An Interdisciplinary Account*. Berlin: Springer-Verlag, 67-96.

Sacks, H. (1992). *Lectures on Conversation* (Vol.2). Oxford: Blackwell.

Timberlake, A. (2004). *A Reference Grammar of Russian*. Cambridge: Cambridge University Press.

ザトラウスキー ポリー (2000). 共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の関連について 日本語科学, 7, 44-69.

分析データ一覧

No.	データ名	チャンネル名	公開日	時間長	URL
1.	kp_240216	KuJiPodcast	2024. 2. 16	1:44:30	https://www.youtube.com/watch?v=_hgHERr8oec&t=2498s
2.	kp_240303	KuJiPodcast	2024. 3. 3	1:11:02	https://www.youtube.com/watch?v=egL_Cu9uJ98
3.	kp_240411	KuJiPodcast	2024. 4. 11	1:43:20	https://www.youtube.com/watch?v=uhtK0pYdXaY&t=2101s
4.	kp_24053	KuJiPodcast	2024. 5. 3	1:05:48	https://www.youtube.com/watch?v=fIRTl1L7gJ2w&t=10s
5.	kp_240617	KuJiPodcast	2024. 6. 17	1:52:09	https://www.youtube.com/watch?v=PZ6YURiUMsY
6.	bp_240128	KuzyaMeduzya	2024. 1. 28	1:16:37	https://www.youtube.com/watch?v=AjAkft4PMjo
7.	bp_240609	KuzyaMeduzya	2024. 6. 9	1:01:19	https://www.youtube.com/watch?v=SmTgj0DJpJA
8.	bl_240128	buharog	2024. 1. 28	3:20:39	https://www.youtube.com/watch?v=xixN2r16smg&list=PLTIPCQQOEZ8L4xlLWJalSQiYyqyUBvC10&index=14
9.	bl_240414	buharog	2024. 4. 14	1:34:29	https://www.youtube.com/watch?v=vbWqZg9dPIE&list=PLTIPCQQOEZ8L4xlLWJalSQiYyqyUBvC10&index=6
10.	hs_240213	zubayraev	2024. 2. 13	2:18:41	https://www.youtube.com/watch?v=MePdg-I-dAU&t=2s
11.	hs_240312	zubayraev	2024. 3. 12	1:30:40	https://www.youtube.com/watch?v=SHGaD7bVNtM
12.	hs_240403	zubayraev	2024. 4. 3	1:27:41	https://www.youtube.com/watch?v=ijdlQ4VKp4c
13.	hs_240501	zubayraev	2024. 5. 1	1:29:59	https://www.youtube.com/watch?v=IAfh17WUlpA
14.	hs_240620	zubayraev	2024. 6. 20	1:33:10	https://www.youtube.com/watch?v=xwNrVdLAFr4
15.	ct_240204	shastoon.channel	2024. 2. 4	1:19:36	https://www.youtube.com/watch?v=xwNrVdLAFr4
16.	ct_240505	shastoon.channel	2024. 5. 5	1:10:42	https://www.youtube.com/watch?v=TcPRsXk-Qvw
17.	ct_240616	shastoon.channel	2024. 6. 16	1:13:43	https://www.youtube.com/watch?v=QLdTnw6Mcm0
18.	nk_240410	easycom	2024. 4. 10	1:52:34	https://www.youtube.com/watch?v=vKUaR0wjxIo&t=3300s
19.	nk_240607	easycom	2024. 6. 7	2:12:59	https://www.youtube.com/watch?v=0qgdcblL84vg